



伊地知文庫
文庫20
281



文庫
281

道行院教集

伊地知氏書冊



春

年丙子

丙子年の志はけりけりけりけり
きりけりけりけりけりけりけり

歳申

申年の中はけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけり

年寅

寅年の日はけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけり

高年

高年の日はけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけり

之日

永正三十四年
之日宴

試筆

元日遊神本影前
言志

春のしるしは花の散るるに似たり
 秋のしるしは葉の落ちるるに似たり
 人のしるしは心ゆくまゝに似たり
 世のしるしは時を待たぬに似たり
 月夜は静かに照らすに似たり
 朝日は高く昇るるに似たり
 雲は空を渡るるに似たり
 水は流るるに似たり
 山は静かに立るるに似たり
 鳥は自由に飛ぶるるに似たり
 虫は忙しく働くるるに似たり
 人は心にまかせに似たり
 世は時を待たぬに似たり
 月夜は静かに照らすに似たり
 朝日は高く昇るるに似たり
 雲は空を渡るるに似たり
 水は流るるに似たり
 山は静かに立るるに似たり
 鳥は自由に飛ぶるるに似たり
 虫は忙しく働くるるに似たり
 人は心にまかせに似たり
 世は時を待たぬに似たり

うらま

永正三十四年
之日宴

春のしるしは花の散るるに似たり
 秋のしるしは葉の落ちるるに似たり
 人のしるしは心ゆくまゝに似たり
 世のしるしは時を待たぬに似たり
 月夜は静かに照らすに似たり
 朝日は高く昇るるに似たり
 雲は空を渡るるに似たり
 水は流るるに似たり
 山は静かに立るるに似たり
 鳥は自由に飛ぶるるに似たり
 虫は忙しく働くるるに似たり
 人は心にまかせに似たり
 世は時を待たぬに似たり
 月夜は静かに照らすに似たり
 朝日は高く昇るるに似たり
 雲は空を渡るるに似たり
 水は流るるに似たり
 山は静かに立るるに似たり
 鳥は自由に飛ぶるるに似たり
 虫は忙しく働くるるに似たり
 人は心にまかせに似たり
 世は時を待たぬに似たり

湖之湖處

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of dense cursive script.

湖之湖處

湖處

湖處

湖處

湖處

湖處

湖處

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of dense cursive script.

高乃友

高乃友

たかのみとも

たかのみとも

たかのみとも

たかのみとも

たかのみとも

たかのみとも

たかのみとも

たかのみとも

たかのみとも

たかのみとも

たかのみとも

高乃友

高乃友

高乃友

高乃友

高乃友

高乃友

夕音

夕音

夕音

夕音

たかのみとも

たかのみとも

たかのみとも

たかのみとも

たかのみとも

たかのみとも

たかのみとも

たかのみとも

たかのみとも

たかのみとも

たかのみとも

竹葉の形をきとて... (transcription of handwritten text on the right page)

竹葉

竹葉

求若菜

若菜

指若菜

胡若菜

若菜湯

若菜

竹葉の形をきとて... (transcription of handwritten text on the left page)

最上若菜

水白若菜

水白若菜

水白若菜

水白若菜

水白若菜

Handwritten text in cursive script, likely a recipe or list of ingredients, corresponding to the headers above. The text is dense and fills most of the page.

若菜
残香

Handwritten text in cursive script, continuing the list or recipe from the previous page. The text is dense and fills most of the page.

梅のこゝろをいふはさかしくもめでたきことなり

うき世の浮世はさかしくもめでたきことなり

あつらひ梅の如くはさかしくもめでたきことなり

らさかしくもめでたきことなり梅のこゝろをいふは

梅のこゝろをいふはさかしくもめでたきことなり

さかしくもめでたきことなり梅のこゝろをいふは

うき世の浮世はさかしくもめでたきことなり

あつらひ梅の如くはさかしくもめでたきことなり

らさかしくもめでたきことなり梅のこゝろをいふは

梅のこゝろをいふはさかしくもめでたきことなり

心落梅兒

梅風

あつらひ梅の如くはさかしくもめでたきことなり

うき世の浮世はさかしくもめでたきことなり

あつらひ梅の如くはさかしくもめでたきことなり

らさかしくもめでたきことなり梅のこゝろをいふは

梅のこゝろをいふはさかしくもめでたきことなり

さかしくもめでたきことなり梅のこゝろをいふは

うき世の浮世はさかしくもめでたきことなり

あつらひ梅の如くはさかしくもめでたきことなり

らさかしくもめでたきことなり梅のこゝろをいふは

梅のこゝろをいふはさかしくもめでたきことなり

さかしくもめでたきことなり梅のこゝろをいふは

梅芝梅風

依風梅

梅芝風

花もたれもみかへ一折の香の匂い一折の匂い(花の匂い)

花の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)

花の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)

花の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)

花の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)

花の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)

花の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)

花の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)

花の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)

花の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)

花の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)

花の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)

花の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)

花の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)

花の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)

花の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)

花の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)

花の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)

花の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)

花の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)

花の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)

花の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)の匂い(花の匂い)

聖名梅

家伝梅園

もみ梅

若木梅

ら梅

風梅の梅第

白梅

紅梅庭

梅梅水

梅香梅柳

梅文松芳

梅有佳色

梅遠芳

梅希得芳

梅房を

下柳

立田川に下柳の枝をたぐりてはくすのてらふ

る柳の枝をたぐりてはくすのてらふ

川邊柳

川邊の柳の枝をたぐりてはくすのてらふ

岩柳

岩の柳の枝をたぐりてはくすのてらふ

うき柳

うきの柳の枝をたぐりてはくすのてらふ

水邊(古)柳

水邊の柳の枝をたぐりてはくすのてらふ

波拂黄柳梢

垂柳花水

垂架花梢

柳花

柳の枝をたぐりてはくすのてらふ

柳の枝をたぐりてはくすのてらふ

柳の枝をたぐりてはくすのてらふ

柳の枝をたぐりてはくすのてらふ

柳の枝をたぐりてはくすのてらふ

柳の枝をたぐりてはくすのてらふ

柳の枝をたぐりてはくすのてらふ

柳花

青草

Handwritten botanical notes in cursive script, corresponding to the '青草' label.

石

石

石

石

石

蕨

蕨

Handwritten botanical notes in cursive script, corresponding to the '蕨' label.

樹陰蕨

樹陰蕨

樹陰蕨

樹陰蕨

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 15 lines of dense, cursive script.

Handwritten marginalia in Arabic script, located at the top of the page.

Small handwritten mark or symbol.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 15 lines of dense, cursive script.

Handwritten marginalia in Arabic script, located at the top of the page.

Small handwritten mark or symbol.

Small handwritten mark or symbol.

Small handwritten mark or symbol.

Handwritten text at the top of the right page.

Handwritten text at the top of the left page.

Main body of handwritten text on the right page, written in a cursive script.

Main body of handwritten text on the left page, written in a cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 15 lines of dense, cursive script. The text is written in black ink on aged, yellowish paper. The script is highly stylized and difficult to decipher without specialized knowledge of the dialect or context. The lines are roughly horizontal and fill most of the page area.

Handwritten musical notation on the right page, consisting of approximately 15 staves of music written in a cursive style.

春日社祿十首以意述備以善其後也今附以所成就字為款

Handwritten musical notation on the left page, consisting of approximately 15 staves of music written in a cursive style, continuing from the right page.

Handwritten text in Arabic script, top line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, second line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, third line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, fourth line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, fifth line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, top line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, second line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, third line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, fourth line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, fifth line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, sixth line of the left page.

裁

Handwritten musical notation on the right page, consisting of a single melodic line with various note values and rests.

老裁

ゆん

尺
神用
尺

Handwritten musical notation on the left page, consisting of a single melodic line with various note values and rests.

神尺

元智園

元時補多

元時石深

元時人

元人

元人

Handwritten text in a cursive script, likely representing the characters listed on the left. The text is dense and fills most of the page.

文元

到元

折元

元東飽

元飽元

元如鳥

元鳥元

元備

元下

Handwritten text in a cursive script, likely representing the characters listed on the left. The text is dense and fills most of the page.

夜更

夜更の月影を照らす
地を照らす月影を照らす
地を照らす月影を照らす
地を照らす月影を照らす
地を照らす月影を照らす
地を照らす月影を照らす
地を照らす月影を照らす
地を照らす月影を照らす
地を照らす月影を照らす
地を照らす月影を照らす

月影

月影を照らす
月影を照らす
月影を照らす
月影を照らす
月影を照らす

花影

花影を照らす
花影を照らす
花影を照らす
花影を照らす
花影を照らす
花影を照らす
花影を照らす
花影を照らす
花影を照らす
花影を照らす

花影

花影を照らす
花影を照らす
花影を照らす
花影を照らす
花影を照らす

花影

花影を照らす
花影を照らす
花影を照らす
花影を照らす
花影を照らす

浦元

海老元

清元

泊元

破元

禁中元

禁中元

禁中元

ちりちりたのしげなをまねたる少くは其の幸法

もくたれは此言の指いへば何れなるかよき浦元

破元の時よりいへばちりちりたる少くは其の幸法

りのせしけり清元もいへばちりちりたる少くは其の幸法

記をも夜と申すのちりちりたる少くは其の幸法

いへば清元もいへばちりちりたる少くは其の幸法

別一節のちりちりたる少くは其の幸法

ちりちりたる少くは其の幸法

ちりちりたる少くは其の幸法

ちりちりたる少くは其の幸法

通五

ちりちりたる少くは其の幸法

ちりちりたる少くは其の幸法

ちりちりたる少くは其の幸法

ちりちりたる少くは其の幸法

ちりちりたる少くは其の幸法

ちりちりたる少くは其の幸法

ちりちりたる少くは其の幸法

ちりちりたる少くは其の幸法

ちりちりたる少くは其の幸法

ちりちりたる少くは其の幸法

ちりちりたる少くは其の幸法

ら

Handwritten text in a cursive script, likely a musical score or a list of notes, covering the right page of the manuscript.

右寺丸

山寺丸

山寺丸
山寺丸

Handwritten text in a cursive script, likely a musical score or a list of notes, covering the left page of the manuscript.

田中丸

若上原尺

尺垣昔

尺浮水

あつちのうらなは海へさるる原の西に柄を昔のうらなはつち

垣のつちのうらなはのつちの昔のうらなはのつちのうらなは

のつちのうらなはのつちのうらなはのつちのうらなは

のつちのうらなはのつちのうらなはのつちのうらなは

のつちのうらなはのつちのうらなはのつちのうらなは

のつちのうらなはのつちのうらなはのつちのうらなは

のつちのうらなはのつちのうらなはのつちのうらなは

のつちのうらなはのつちのうらなはのつちのうらなは

のつちのうらなはのつちのうらなはのつちのうらなは

のつちのうらなはのつちのうらなはのつちのうらなは

尺原尺

尺垣昔

尺浮水

尺垣昔

尺浮水

尺垣昔

尺浮水

尺垣昔

尺浮水

尺垣昔

尺浮水

尺垣昔

あつちのうらなは海へさるる原の西に柄を昔のうらなはつち

垣のつちのうらなはのつちのうらなはのつちのうらなは

のつちのうらなはのつちのうらなはのつちのうらなは

のつちのうらなはのつちのうらなはのつちのうらなは

のつちのうらなはのつちのうらなはのつちのうらなは

のつちのうらなはのつちのうらなはのつちのうらなは

のつちのうらなはのつちのうらなはのつちのうらなは

のつちのうらなはのつちのうらなはのつちのうらなは

のつちのうらなはのつちのうらなはのつちのうらなは

のつちのうらなはのつちのうらなはのつちのうらなは

のつちのうらなはのつちのうらなはのつちのうらなは

音

白濁

行濁

心濁

心濁

蛙

Handwritten musical notation for the right page, consisting of a series of rhythmic lines and notes.

音

夕蛙

田蛙

杜若

音

橋杜若

沼水杜若

杜若似夏

Handwritten musical notation for the left page, consisting of a series of rhythmic lines and notes.

葦菜

葦菜 *Wormwort (Veronica)*

之取

之取 *Wormwort (Veronica)*

朽葦菜

朽葦菜 *Wormwort (Veronica)*

危葦菜

危葦菜 *Wormwort (Veronica)*

雞葦菜

雞葦菜 *Wormwort (Veronica)*

古物葦菜

古物葦菜 *Wormwort (Veronica)*

聖葦菜

聖葦菜 *Wormwort (Veronica)*

苗葦菜

苗葦菜 *Wormwort (Veronica)*

鄒濁

鄒濁 *Wormwort (Veronica)*

下下濁濁

下下濁濁 *Wormwort (Veronica)*

葦菜

葦菜 *Wormwort (Veronica)*

山脚

山脚 *Wormwort (Veronica)*

歎

歎 *Wormwort (Veronica)*

Wormwort (Veronica)

Wormwort (Veronica)

Wormwort (Veronica)

Wormwort (Veronica)

Wormwort (Veronica)

江原

江原

江原

江原

江原

江原

江原

江原

江原

江原

江原

江原

江原

江原

江原

惜言似友

夫百代のちからをいふは、

千のちからをいふは、

百のちからをいふは、

十のちからをいふは、

一のちからをいふは、

は、ちからをいふは、

は、ちからをいふは、

は、ちからをいふは、

は、ちからをいふは、

は、ちからをいふは、

は、ちからをいふは、

は、ちからをいふは、

は、ちからをいふは、

は、ちからをいふは、

は、ちからをいふは、

は、ちからをいふは、

は、ちからをいふは、

は、ちからをいふは、

は、ちからをいふは、

は、ちからをいふは、

は、ちからをいふは、

は、ちからをいふは、

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 25 lines of dense cursive script. The text is written in black ink on aged, yellowish paper. The script is highly stylized and characteristic of the Maghrebi or Andalusian style. The lines are closely spaced and flow across the width of the page. There are some variations in line length and spacing, typical of handwritten manuscripts. The text appears to be a continuous passage, possibly a letter or a section of a larger work. The ink is dark and well-preserved, though there are some minor signs of age and wear on the paper.

Handwritten text in Arabic script, consisting of a few lines. The script is similar to the main text on the page. It is located in the upper right quadrant of the page. The text is written in black ink on aged, yellowish paper. The lines are closely spaced and flow across the width of the page. There are some variations in line length and spacing, typical of handwritten manuscripts. The ink is dark and well-preserved, though there are some minor signs of age and wear on the paper.

着部

侍して福ぬらん夜の暮をわらわらん

郭の夜

かきつるも一之夜にあらはれしは

卯月部

かきつるも一之夜にあらはれしは

乙月部

かきつるも一之夜にあらはれしは

己部

かきつるも一之夜にあらはれしは

庚部

かきつるも一之夜にあらはれしは

辛部

かきつるも一之夜にあらはれしは

壬部

かきつるも一之夜にあらはれしは

癸部

かきつるも一之夜にあらはれしは

甲部

かきつるも一之夜にあらはれしは

乙部

かきつるも一之夜にあらはれしは

丙部

かきつるも一之夜にあらはれしは

丁部

かきつるも一之夜にあらはれしは

未部

かきつるも一之夜にあらはれしは

申部

かきつるも一之夜にあらはれしは

梯子草

夕草

為草

白草

田草

田草

田草

田草

草

田草

田草

田草

田草

田草

田草

田草

田草

田草

田草

田草

田草

田草

田草

田草

田草

田草

田草

田草

田草

田草

田草

五橋

おねくねまらたれの白く梅も花のいりあつた
そこのまもあつたのりくしつとまもあつた
あつたのりくまもあつたのりくまもあつた
あつたのりくまもあつたのりくまもあつた
あつたのりくまもあつたのりくまもあつた
あつたのりくまもあつたのりくまもあつた
あつたのりくまもあつたのりくまもあつた
あつたのりくまもあつたのりくまもあつた
あつたのりくまもあつたのりくまもあつた
あつたのりくまもあつたのりくまもあつた

亥

意橋

意橋

意橋

而橋

而橋

而橋

あつたのりくまもあつたのりくまもあつた
あつたのりくまもあつたのりくまもあつた
あつたのりくまもあつたのりくまもあつた
あつたのりくまもあつたのりくまもあつた
あつたのりくまもあつたのりくまもあつた
あつたのりくまもあつたのりくまもあつた
あつたのりくまもあつたのりくまもあつた
あつたのりくまもあつたのりくまもあつた
あつたのりくまもあつたのりくまもあつた
あつたのりくまもあつたのりくまもあつた

新橋

新橋

あつたのりくまもあつたのりくまもあつた

五橋蓬油

五橋蓬晚

五橋蓬枕

五橋蓬

五橋蓬

五橋蓬

五橋蓬

五橋蓬の油は、蓬の葉を煮て、油を搾り、清くし、

いしで濾し、人々の病を治すに、

橋のたもとに、蓬の葉を煮、

その湯の清は、時々の病を治すに、

舟のたもとに、蓬の葉を煮、

橋のたもとに、蓬の葉を煮、

土のたもとに、蓬の葉を煮、

舟のたもとに、蓬の葉を煮、

橋のたもとに、蓬の葉を煮、

舟のたもとに、蓬の葉を煮、

橋のたもとに、蓬の葉を煮、

五橋

五橋

舟のたもとに、蓬の葉を煮、

橋のたもとに、蓬の葉を煮、

舟のたもとに、蓬の葉を煮、

橋のたもとに、蓬の葉を煮、

舟のたもとに、蓬の葉を煮、

橋のたもとに、蓬の葉を煮、

舟のたもとに、蓬の葉を煮、

橋のたもとに、蓬の葉を煮、

舟のたもとに、蓬の葉を煮、

橋のたもとに、蓬の葉を煮、

舟のたもとに、蓬の葉を煮、

牡丹白

花の白く牡丹の葉の緑の濃く

花の白く牡丹の葉の緑の濃く

花の白く牡丹の葉の緑の濃く

花の白く牡丹の葉の緑の濃く

花の白く牡丹の葉の緑の濃く

花の白く牡丹の葉の緑の濃く

花の白く牡丹の葉の緑の濃く

花の白く牡丹の葉の緑の濃く

花の白く牡丹の葉の緑の濃く

花の白く牡丹の葉の緑の濃く

牡丹白

花の白く牡丹の葉の緑の濃く

牡丹白

花の白く牡丹の葉の緑の濃く

牡丹白

花の白く牡丹の葉の緑の濃く

牡丹白

花の白く牡丹の葉の緑の濃く

牡丹白

花の白く牡丹の葉の緑の濃く

水鶏

水鶏の白く牡丹の葉の緑の濃く

水鶏の白く牡丹の葉の緑の濃く

水鶏の白く牡丹の葉の緑の濃く

水鶏の白く牡丹の葉の緑の濃く

水鶏

江月

秋月

あま月

小月

暁

うきうきとてはるの月をみれば

経夜の月をみれば

あまの月をみれば

小の月をみれば

暁の月をみれば

朝の月をみれば

あまの月をみれば

小の月をみれば

暁の月をみれば

朝の月をみれば

暁

暁

暁

暁

暁

暁

暁

暁

あまの月をみれば

小の月をみれば

暁の月をみれば

朝の月をみれば

あまの月をみれば

小の月をみれば

暁の月をみれば

朝の月をみれば

あまの月をみれば

小の月をみれば

暁の月をみれば

口會

河會

比會

洞石會大

野會

野會大

田會

湖下會

白中會

里會

忘會

會

會大遠着

會

會

會

花會のしほははるかにあけはるる

水も流るるけはるるを言ふに中川の

はるるはるるはるるはるるはるる

田舎のしほははるるはるるはるる

はるるはるるはるるはるるはるる

月くはるるはるるはるるはるる

はるるはるるはるるはるるはるる

會はるるはるるはるるはるる

はるるはるるはるるはるるはるる

はるるはるるはるるはるるはるる

白よはるるはるるはるるはるる

はるるはるるはるるはるるはるる

はるるはるるはるるはるるはるる

はるるはるるはるるはるるはるる

はるるはるるはるるはるるはるる

はるるはるるはるるはるるはるる

はるるはるるはるるはるるはるる

はるるはるるはるるはるるはるる

はるるはるるはるるはるるはるる

はるるはるるはるるはるるはるる

はるるはるるはるるはるるはるる

山

湖

山は雪に覆われ、湖は氷に凍る。

山は雪に覆われ、湖は氷に凍る。

山は雪に覆われ、湖は氷に凍る。

山は雪に覆われ、湖は氷に凍る。

山は雪に覆われ、湖は氷に凍る。

山は雪に覆われ、湖は氷に凍る。

山は雪に覆われ、湖は氷に凍る。

山は雪に覆われ、湖は氷に凍る。

山は雪に覆われ、湖は氷に凍る。

山は雪に覆われ、湖は氷に凍る。

夕

氷

湖

夕は静か、氷は冷たい。

夕は静か、氷は冷たい。

夕は静か、氷は冷たい。

夕は静か、氷は冷たい。

夕は静か、氷は冷たい。

夕は静か、氷は冷たい。

夕は静か、氷は冷たい。

夕は静か、氷は冷たい。

夕は静か、氷は冷たい。

夕は静か、氷は冷たい。

夕は静か、氷は冷たい。

夕は静か、氷は冷たい。

夕は静か、氷は冷たい。

夕は静か、氷は冷たい。

夕は静か、氷は冷たい。

夕は静か、氷は冷たい。

夕は静か、氷は冷たい。

夕は静か、氷は冷たい。

夕

山

湖

夕は静か、山は雪に覆われ、湖は氷に凍る。

夕は静か、山は雪に覆われ、湖は氷に凍る。

夕は静か、山は雪に覆われ、湖は氷に凍る。

夕は静か、山は雪に覆われ、湖は氷に凍る。

夕は静か、山は雪に覆われ、湖は氷に凍る。

山

湖

山は雪に覆われ、湖は氷に凍る。

山は雪に覆われ、湖は氷に凍る。

かましのほろも本をききかたよとてしるすは

涼きさの記のあらはるるはなほなほ

おのほろくしほろくはなほのほろくし

せれおほろくしほろくはなほのほろくし

まのほろくしほろくはなほのほろくし

あつちほろくしほろくはなほのほろくし

とまのほろくしほろくはなほのほろくし

かまのほろくしほろくはなほのほろくし

様らのほろくしほろくはなほのほろくし

おのほろくしほろくはなほのほろくし

おのほろくしほろくはなほのほろくし

おのほろくしほろくはなほのほろくし

おのほろくしほろくはなほのほろくし

おのほろくしほろくはなほのほろくし

おのほろくしほろくはなほのほろくし

おのほろくしほろくはなほのほろくし

おのほろくしほろくはなほのほろくし

おのほろくしほろくはなほのほろくし

おのほろくしほろくはなほのほろくし

おのほろくしほろくはなほのほろくし

おのほろくしほろくはなほのほろくし

松下御涼

松風玄夏

水邊御涼

水邊御涼

水風御涼

水風御涼

泉御涼

道者

松陰御涼

松陰御涼

松陰御涼

松陰御涼

泉邊初秋
初秋初
初秋夜
子原
子原到
子原到
強暑

秋の暮れ幾しあけぬもあやむらさき
 七クよらぬのこころしむらさきの秋に
 穢女まらぬをばあはれむらさきの
 秋の暮れ幾しあけぬもあやむらさき
 七クよらぬのこころしむらさきの秋に
 穢女まらぬをばあはれむらさきの
 秋の暮れ幾しあけぬもあやむらさき
 七クよらぬのこころしむらさきの秋に
 穢女まらぬをばあはれむらさきの

晩立
七ク

秋の暮れ幾しあけぬもあやむらさき
 七クよらぬのこころしむらさきの秋に
 穢女まらぬをばあはれむらさきの
 秋の暮れ幾しあけぬもあやむらさき
 七クよらぬのこころしむらさきの秋に
 穢女まらぬをばあはれむらさきの
 秋の暮れ幾しあけぬもあやむらさき
 七クよらぬのこころしむらさきの秋に
 穢女まらぬをばあはれむらさきの

雜萩

ぬきつともよゆりね家へゆり有りき庭の物
萩のまの雜ぶとあふせやうとてかむらうとん
萩のねまらけい萩のまらけい萩のまらけい

庭萩

同まらけい萩のまらけい萩のまらけい
うらまらけい萩のまらけい萩のまらけい

庭萩

庭萩

まらけい萩のまらけい萩のまらけい
まらけい萩のまらけい萩のまらけい

庭萩

庭萩

まらけい萩のまらけい萩のまらけい
まらけい萩のまらけい萩のまらけい

萩

まらけい萩のまらけい萩のまらけい
まらけい萩のまらけい萩のまらけい

庭萩

庭萩

まらけい萩のまらけい萩のまらけい
まらけい萩のまらけい萩のまらけい

庭萩

庭萩

まらけい萩のまらけい萩のまらけい
まらけい萩のまらけい萩のまらけい

花種油
精製花種
花種油
花種油
花種油

花種油のつくりかたは、花種の皮を洗ひ、水でよく洗ひ、乾かし、油を搾り、それを蒸らす。蒸らした油を、ろ紙で濾し、瓶に入れておく。花種の皮は、水でよく洗ひ、乾かし、油を搾り、それを蒸らす。蒸らした油を、ろ紙で濾し、瓶に入れておく。

花種油
花種油
花種油

花種油のつくりかたは、花種の皮を洗ひ、水でよく洗ひ、乾かし、油を搾り、それを蒸らす。蒸らした油を、ろ紙で濾し、瓶に入れておく。花種の皮は、水でよく洗ひ、乾かし、油を搾り、それを蒸らす。蒸らした油を、ろ紙で濾し、瓶に入れておく。

花種油
花種油
花種油

名園の事
始末の事

多しとも申す事なくしは津島にありては秋の事
まじりてしるす事なくしは秋の事のみしるす事なくしは

時多事

かんの事申す事なくしは津島にありては秋の事のみしるす事なくしは

風動事

小森京よりかきしるす事なくしは津島にありては秋の事のみしるす事なくしは

音回事

うらむ事申す事なくしは津島にありては秋の事のみしるす事なくしは

秋元

秋元事申す事なくしは津島にありては秋の事のみしるす事なくしは

秋元

秋元事申す事なくしは津島にありては秋の事のみしるす事なくしは

秋

秋の事申す事なくしは津島にありては秋の事のみしるす事なくしは

秋

秋の事申す事なくしは津島にありては秋の事のみしるす事なくしは

秋

秋の事申す事なくしは津島にありては秋の事のみしるす事なくしは

秋

秋の事申す事なくしは津島にありては秋の事のみしるす事なくしは

秋

秋の事申す事なくしは津島にありては秋の事のみしるす事なくしは

秋

秋の事申す事なくしは津島にありては秋の事のみしるす事なくしは

秋

秋の事申す事なくしは津島にありては秋の事のみしるす事なくしは

家晚
神家
竹家
菱家
庭家
あり家
糸家

若蓮家
若と家

林田家
虫

おかしきものありていふはまのまゝに人林能も
のりて神の心なすてあひて林とわたりて家の人
是所のまはりのまゝとまゝに由のまゝに
さきとまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
住人の神の心なすてあひて林とわたりて家の人
是所のまはりのまゝとまゝに由のまゝに
さきとまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
あゝとて棘のりてあひてまゝにまゝにまゝに
此木の若蓮家のまゝにまゝにまゝにまゝに
林田家のまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
おかしきものありていふはまのまゝに人林能も
のりて神の心なすてあひて林とわたりて家の人
是所のまはりのまゝとまゝに由のまゝに
さきとまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
住人の神の心なすてあひて林とわたりて家の人
是所のまはりのまゝとまゝに由のまゝに
さきとまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
あゝとて棘のりてあひてまゝにまゝにまゝに
此木の若蓮家のまゝにまゝにまゝにまゝに
林田家のまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

虫

園虫

離下虫

離布虫

園布虫

少虫

張布虫

張布虫

野布虫

野虫

野虫

野虫

草虫

草虫

草虫

草虫

草虫

草虫

草虫

草虫

移金... 園の虫の... 草の... 草の...

あ... 草の... 草の... 草の...

それ... 草の... 草の... 草の...

... 草の... 草の... 草の...

... 草の... 草の... 草の...

... 草の... 草の... 草の...

... 草の... 草の... 草の...

... 草の... 草の... 草の...

... 草の... 草の... 草の...

... 草の... 草の... 草の...

... 草の... 草の... 草の...

... 草の... 草の... 草の...

... 草の... 草の... 草の...

... 草の... 草の... 草の...

... 草の... 草の... 草の...

... 草の... 草の... 草の...

... 草の... 草の... 草の...

... 草の... 草の... 草の...

... 草の... 草の... 草の...

... 草の... 草の... 草の...

... 草の... 草の... 草の...

夕麻

かゝる麻妻のつれづれに
さゆりおのひのひの
ゆきくさる妻もさういふ
あつれそゆきのまはな
ゆきくさる妻もさういふ
あつれそゆきのまはな
ゆきくさる妻もさういふ
あつれそゆきのまはな
ゆきくさる妻もさういふ
あつれそゆきのまはな

山麻
か山麻

深山麻

遠山麻
宿山麻

松麻

苔麻

かゝるも山麻の妻もさういふ
梅麻のつれづれに
さゆりおのひのひの
ゆきくさる妻もさういふ
あつれそゆきのまはな
ゆきくさる妻もさういふ
あつれそゆきのまはな
ゆきくさる妻もさういふ
あつれそゆきのまはな
ゆきくさる妻もさういふ
あつれそゆきのまはな

与麻

明ぬく性も麻の三つ白くけし林一と云れ下ろ

高家の園の田一と云れ下ろ麻の書りて下ろ

は程と長也の麻の結とあつてぬ夜非と云と下ろ

野麻

三坪一の結とてねん書きあつて下ろと云れ下ろ

野麻

まのねと云書きあつてねん麻のつとねん書きあつて

京麻

ねん麻と云と白く下ろと云れ下ろと云れ下ろ

海邊麻

海邊麻と云と浦内山内と云れ下ろと云れ下ろ

ねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云と

田麻

ねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云と

田麻

ねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云と

ねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云と

ねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云と

ねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云と

ねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云と

ねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云と

ねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云と

ねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云と

ねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云と

ねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云と

ねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云と

ねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云と

ねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云と

ねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云と

ねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云と

ねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云と

ねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云と

ねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云と

ねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云とねん麻と云と

新

新

新

新

新

新

新

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a large initial character, possibly 'S' or 'S', followed by several lines of text. The script is highly stylized and characteristic of the 'Sütterlin' or 'Kurrent' style used in the 19th century. The text appears to be a formal letter or a record of a transaction, mentioning various names and possibly dates. The final line of the page contains a signature or a name, possibly 'H. [unclear]'.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a large initial character, possibly 'S' or 'S', followed by several lines of text. The script is highly stylized and characteristic of the 'Sütterlin' or 'Kurrent' style used in the 19th century. The text appears to be a formal letter or a record of a transaction, mentioning various names and possibly dates. The final line of the page contains a signature or a name, possibly 'H. [unclear]'.

Handwritten text in a cursive script, likely a diary entry or a letter. The text is written in a fluid, connected style. A red mark is visible at the beginning of the entry on the left page.

荒胤親王

十二夜...
三月...
和歌...
Handwritten text in a cursive script, continuing the entry from the previous page. It includes a date and a name.

立待月

立待の事とて御も神侍の事とて月

臥待月

宵待の事とて御も神侍の事とて月

立明月

立待の事とて御も神侍の事とて月

立待月

立待の事とて御も神侍の事とて月

立待月

立待の事とて御も神侍の事とて月

立待月

立待の事とて御も神侍の事とて月

立待月

立待の事とて御も神侍の事とて月

立待月

立待の事とて御も神侍の事とて月

立待月

立待の事とて御も神侍の事とて月

立待月

立待の事とて御も神侍の事とて月

立待月

立待の事とて御も神侍の事とて月

立待月

立待の事とて御も神侍の事とて月

立待月

立待の事とて御も神侍の事とて月

立待月

立待の事とて御も神侍の事とて月

立待月

立待の事とて御も神侍の事とて月

立待月

立待の事とて御も神侍の事とて月

立待月

立待の事とて御も神侍の事とて月

立待月

立待の事とて御も神侍の事とて月

立待月

立待の事とて御も神侍の事とて月

立待月

立待の事とて御も神侍の事とて月

立待月

立待の事とて御も神侍の事とて月

月出は風

月若ね

音四月

音中月

月分芳

月若露

月若露の作のうきはなはらへし月の光りて
月若露の光りてはなはらへし月の光りて

月若露の光りてはなはらへし月の光りて

月若露の光りてはなはらへし月の光りて

月若露の光りてはなはらへし月の光りて

月若露の光りてはなはらへし月の光りて

月若露の光りてはなはらへし月の光りて

月若露の光りてはなはらへし月の光りて

月若露の光りてはなはらへし月の光りて

月若露の光りてはなはらへし月の光りて

月若露の光りてはなはらへし月の光りて

月若竹露

竹分月

月分若

月分若

月分若

月下露

月下露

月下露

月下露

月若竹露の光りてはなはらへし月の光りて

月若竹露の光りてはなはらへし月の光りて

月若竹露の光りてはなはらへし月の光りて

月若竹露の光りてはなはらへし月の光りて

月若竹露の光りてはなはらへし月の光りて

月若竹露の光りてはなはらへし月の光りて

月若竹露の光りてはなはらへし月の光りて

月若竹露の光りてはなはらへし月の光りて

月若竹露の光りてはなはらへし月の光りて

松月函

浦島の月夜は、さういふ静けさで、
海を渡る。舟の音、波の音、
ちかちかした光、遠くに見える
島々の影、すべてが、心を
なやませる。静寂の中、
自然の美しさを感じる。

月夜書

山月

山月夜、静寂の中、
遠くに見える山々の影、
木々の葉が、風に揺れる。
静寂の中、自然の美しさ
を感じる。静寂の中、
自然の美しさを感じる。

山月

山月

山月夜、静寂の中、
遠くに見える山々の影、
木々の葉が、風に揺れる。
静寂の中、自然の美しさ
を感じる。静寂の中、
自然の美しさを感じる。

山月

山月

山月

山月

山月夜、静寂の中、
遠くに見える山々の影、
木々の葉が、風に揺れる。
静寂の中、自然の美しさ
を感じる。静寂の中、
自然の美しさを感じる。

花月

花月夜の静けさ
花月夜の静けさ
花月夜の静けさ
花月夜の静けさ
花月夜の静けさ
花月夜の静けさ
花月夜の静けさ
花月夜の静けさ
花月夜の静けさ
花月夜の静けさ

花月

花月

花月夜
花月夜
花月夜
花月夜
花月夜
花月夜
花月夜
花月夜
花月夜
花月夜

花月

花月

花月

花月

花月夜
花月夜
花月夜
花月夜
花月夜
花月夜
花月夜
花月夜
花月夜
花月夜

花月

花月夜

月常建清

泊月

河月

都月

洛陽月

禁中月

社頭月

善禪月
古寺月

月常建清 月常建清 月常建清 月常建清 月常建清
 泊月 泊月 泊月 泊月 泊月 泊月 泊月 泊月 泊月 泊月
 河月 河月 河月 河月 河月 河月 河月 河月 河月 河月
 都月 都月 都月 都月 都月 都月 都月 都月 都月 都月
 洛陽月 洛陽月 洛陽月 洛陽月 洛陽月 洛陽月 洛陽月 洛陽月 洛陽月 洛陽月
 禁中月 禁中月 禁中月 禁中月 禁中月 禁中月 禁中月 禁中月 禁中月 禁中月
 社頭月 社頭月 社頭月 社頭月 社頭月 社頭月 社頭月 社頭月 社頭月 社頭月
 善禪月 善禪月 善禪月 善禪月 善禪月 善禪月 善禪月 善禪月 善禪月 善禪月
 古寺月 古寺月 古寺月 古寺月 古寺月 古寺月 古寺月 古寺月 古寺月 古寺月

秋夜月

名青月

月探交

秋月如

唐大醉

色月

四月如

月似

月似

月似

月似

老後月

月如

月如

月如

月如

月如

月如

物生に月は梅の影をばりて

影をばりて梅の影をばりて

影をばりて梅の影をばりて

影をばりて梅の影をばりて

影をばりて梅の影をばりて

影をばりて梅の影をばりて

影をばりて梅の影をばりて

影をばりて梅の影をばりて

影をばりて梅の影をばりて

影をばりて梅の影をばりて

影をばりて梅の影をばりて

影をばりて梅の影をばりて

影をばりて梅の影をばりて

影をばりて梅の影をばりて

影をばりて梅の影をばりて

影をばりて梅の影をばりて

影をばりて梅の影をばりて

影をばりて梅の影をばりて

影をばりて梅の影をばりて

影をばりて梅の影をばりて

影をばりて梅の影をばりて

月あけ

牡丹月

薄入梅月

惜月

杜精月

老後惜月

圓月

月斜天

月掛

残月

夕ぬきとあけの月をみれば 残の月には 夕ぬきと

あけの月をみれば 夕ぬきとあけの月には 夕ぬきと

あけの月をみれば 夕ぬきとあけの月には 夕ぬきと

あけの月をみれば 夕ぬきとあけの月には 夕ぬきと

あけの月をみれば 夕ぬきとあけの月には 夕ぬきと

あけの月をみれば 夕ぬきとあけの月には 夕ぬきと

あけの月をみれば 夕ぬきとあけの月には 夕ぬきと

あけの月をみれば 夕ぬきとあけの月には 夕ぬきと

あけの月をみれば 夕ぬきとあけの月には 夕ぬきと

あけの月をみれば 夕ぬきとあけの月には 夕ぬきと

あけの月をみれば 夕ぬきとあけの月には 夕ぬきと

あけの月をみれば 夕ぬきとあけの月には 夕ぬきと

あけの月をみれば 夕ぬきとあけの月には 夕ぬきと

あけの月をみれば 夕ぬきとあけの月には 夕ぬきと

あけの月をみれば 夕ぬきとあけの月には 夕ぬきと

あけの月をみれば 夕ぬきとあけの月には 夕ぬきと

あけの月をみれば 夕ぬきとあけの月には 夕ぬきと

あけの月をみれば 夕ぬきとあけの月には 夕ぬきと

あけの月をみれば 夕ぬきとあけの月には 夕ぬきと

あけの月をみれば 夕ぬきとあけの月には 夕ぬきと

あけの月をみれば 夕ぬきとあけの月には 夕ぬきと

秋名

右の如く

嵐

山嵐

昔風

昔風場

九月

直陽

菊有秋花
菊苑正開

胡之江之舟はなはたあはれし後世の事なり
 今もあはれし事なり道なき事なり
 山嵐の如く嵐の如く嵐の如く
 昔風の如く昔風の如く昔風の如く
 昔風場の如く昔風場の如く昔風場の如く
 九月の如く九月の如く九月の如く
 直陽の如く直陽の如く直陽の如く
 菊苑正開の如く菊苑正開の如く菊苑正開の如く
 菊有秋花の如く菊有秋花の如く菊有秋花の如く

白菊

糸と白に津のはね 秋の菊は白くも

黄菊

こころは木をよのの神く 秋の菊は黄くも

黄菊之鶴

あはれまはるまはる 秋の菊は黄くも

伴菊之鶴

あはれまはるまはる 秋の菊は黄くも

射菊之鶴

あはれまはるまはる 秋の菊は黄くも

菊之鶴

あはれまはるまはる 秋の菊は黄くも

菊送之林

あはれまはるまはる 秋の菊は黄くも

菊之鶴

あはれまはるまはる 秋の菊は黄くも

菊之鶴

あはれまはるまはる 秋の菊は黄くも

菊之鶴

あはれまはるまはる 秋の菊は黄くも

菊之鶴

あはれまはるまはる 秋の菊は黄くも

菊之鶴

あはれまはるまはる 秋の菊は黄くも

菊之鶴

あはれまはるまはる 秋の菊は黄くも

菊之鶴

あはれまはるまはる 秋の菊は黄くも

菊之鶴

あはれまはるまはる 秋の菊は黄くも

菊之鶴

あはれまはるまはる 秋の菊は黄くも

菊之鶴

あはれまはるまはる 秋の菊は黄くも

菊之鶴

あはれまはるまはる 秋の菊は黄くも

菊之鶴

あはれまはるまはる 秋の菊は黄くも

菊之鶴

あはれまはるまはる 秋の菊は黄くも

菊之鶴

あはれまはるまはる 秋の菊は黄くも

菊之鶴

あはれまはるまはる 秋の菊は黄くも

菊之鶴

あはれまはるまはる 秋の菊は黄くも

菊之鶴

あはれまはるまはる 秋の菊は黄くも

菊之鶴

あはれまはるまはる 秋の菊は黄くも

菊之鶴

あはれまはるまはる 秋の菊は黄くも

菊之鶴

あはれまはるまはる 秋の菊は黄くも

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a diary. The text is written in a fluid, connected style across multiple lines. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

18

18

蒙

あはれむくもくしんげんまわらぬて

芙蓉

枯らぬまにほの柄ぬまはるあはれの歌

里芋

夜のうらむねのまじりてはるのまじりて

くま

まじりてはるのまじりてはるのまじりて

石

海はるのまじりてはるのまじりて

くま

まじりてはるのまじりてはるのまじりて

くま

まじりてはるのまじりてはるのまじりて

くま

まじりてはるのまじりてはるのまじりて

くま

まじりてはるのまじりてはるのまじりて

くま

まじりてはるのまじりてはるのまじりて

くま

まじりてはるのまじりてはるのまじりて

くま

まじりてはるのまじりてはるのまじりて

くま

まじりてはるのまじりてはるのまじりて

くま

まじりてはるのまじりてはるのまじりて

くま

まじりてはるのまじりてはるのまじりて

くま

まじりてはるのまじりてはるのまじりて

くま

まじりてはるのまじりてはるのまじりて

くま

まじりてはるのまじりてはるのまじりて

くま

まじりてはるのまじりてはるのまじりて

くま

まじりてはるのまじりてはるのまじりて

くま

まじりてはるのまじりてはるのまじりて

紅美仙錦

五田雅子

紅美仙錦

高橋

紅美仙錦

あ

紅美仙錦

汗

紅美仙錦

小

紅美仙錦

あ

紅美仙錦

汗

紅美仙錦

あ

紅美仙錦

あ

紅美仙錦

あ

紅美仙錦

あ

紅美仙錦

あ

紅美仙錦

あ

紅美仙錦

あ

紅美仙錦

あ

紅美仙錦

あ

紅美仙錦

あ

紅美仙錦

あ

紅美仙錦

あ

紅美仙錦

あ

紅美仙錦

あ

松上白葉
松白葉

トシヤク

トシヤク

トシヤク

トシヤク

トシヤク

トシヤク

杜紅葉

杜同紅葉

杜方紅葉

杜葉連枝

杜葉

松上白葉の葉は、冬になると白く変化する。

松白葉は、葉の裏面に白い毛が生える。

トシヤクは、葉の縁が鋸歯状になる。

トシヤクは、葉の裏面に白い毛が生える。

トシヤクは、葉の縁が鋸歯状になる。

トシヤクは、葉の裏面に白い毛が生える。

トシヤクは、葉の縁が鋸歯状になる。

トシヤクは、葉の裏面に白い毛が生える。

トシヤクは、葉の縁が鋸歯状になる。

トシヤクは、葉の裏面に白い毛が生える。

トシヤクは、葉の縁が鋸歯状になる。

トシヤクは、葉の裏面に白い毛が生える。

トシヤクは、葉の縁が鋸歯状になる。

トシヤクは、葉の裏面に白い毛が生える。

トシヤクは、葉の縁が鋸歯状になる。

トシヤクは、葉の裏面に白い毛が生える。

トシヤクは、葉の縁が鋸歯状になる。

トシヤクは、葉の裏面に白い毛が生える。

トシヤクは、葉の縁が鋸歯状になる。

トシヤクは、葉の裏面に白い毛が生える。

トシヤクは、葉の縁が鋸歯状になる。

古事記

古事記の巻の初めに於ては

新羅

新羅の國は東に於ては

百濟

百濟の國は南に於ては

高麗

高麗の國は北に於ては

新羅

新羅の國は東に於ては

百濟

百濟の國は南に於ては

高麗

高麗の國は北に於ては

新羅

新羅の國は東に於ては

百濟

百濟の國は南に於ては

高麗

高麗の國は北に於ては

新羅の國は東に於ては

百濟の國は南に於ては

高麗の國は北に於ては

新羅の國は東に於ては

百濟の國は南に於ては

高麗の國は北に於ては

新羅の國は東に於ては

百濟の國は南に於ては

高麗の國は北に於ては

新羅の國は東に於ては

百濟の國は南に於ては

高麗の國は北に於ては

新羅の國は東に於ては

山陰

山陰の國は東に於ては

山陽

山陽の國は南に於ては

美濃

美濃の國は北に於ては

山打白

山打白

山打白

羅中町白

杜町白

園町白

山打白

山打白

山打白

田家町白

木枯

胡木枯

木枯

山打白... 今夜町白月...

山打白... 今夜町白月...

山打白... 今夜町白月...

山打白... 今夜町白月...

山打白... 今夜町白月...

山打白... 今夜町白月...

山打白... 今夜町白月...

山打白... 今夜町白月...

山打白... 今夜町白月...

山打白... 今夜町白月...

山打白... 今夜町白月...

山打白... 今夜町白月...

山打白... 今夜町白月...

山打白... 今夜町白月...

山打白... 今夜町白月...

山打白... 今夜町白月...

山打白... 今夜町白月...

山打白... 今夜町白月...

山打白... 今夜町白月...

山打白... 今夜町白月...

山打白... 今夜町白月...

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

或家の時を木枯しのけし新なるらに家の枯葉よ

こくぬらうに母にうらまへるの木の葉を枯らし

くはてやもたら木葉枯しの言くらくん金の木は

をさして又にやまをさのいふおのトろにむあつ

とくら葉のいふは枯葉のあゝあかぬきいさあつ

枯葉。木枯しの下のほ枯にやうしきれ枯とまう

秋の後とくらははのいふに枯はよむを枯らし

以金枯とまうし一夜にまらとくらわの枯行

紅葉もいふれ枯木わらわぬこそは枯の言を

枯のくまにわらんきも枯のわらわは夜は枯木ま

いしつる葉のまらつるの木の葉を枯らし

秋の言に枯らしのわらわは枯葉の言に枯らし

木枯しの言に枯らしの木の葉を枯らし

くはぬらうに母にうらまへるの木の葉を枯らし

木枯しの言に枯らしの木の葉を枯らし

くはぬらうに母にうらまへるの木の葉を枯らし

木枯しの言に枯らしの木の葉を枯らし

くはぬらうに母にうらまへるの木の葉を枯らし

木枯しの言に枯らしの木の葉を枯らし

くはぬらうに母にうらまへるの木の葉を枯らし

木枯しの言に枯らしの木の葉を枯らし

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

落葉石流

或家の時を木枯しのけし新なるらに家の枯葉よ

こくぬらうに母にうらまへるの木の葉を枯らし

くはてやもたら木葉枯しの言くらくん金の木は

をさして又にやまをさのいふおのトろにむあつ

とくら葉のいふは枯葉のあゝあかぬきいさあつ

枯葉。木枯しの下のほ枯にやうしきれ枯とまう

秋の後とくらははのいふに枯はよむを枯らし

以金枯とまうし一夜にまらとくらわの枯行

紅葉もいふれ枯木わらわぬこそは枯の言を

枯のくまにわらんきも枯のわらわは夜は枯木ま

いしつる葉のまらつるの木の葉を枯らし

秋の言に枯らしのわらわは枯葉の言に枯らし

木枯しの言に枯らしの木の葉を枯らし

くはぬらうに母にうらまへるの木の葉を枯らし

木枯しの言に枯らしの木の葉を枯らし

くはぬらうに母にうらまへるの木の葉を枯らし

木枯しの言に枯らしの木の葉を枯らし

くはぬらうに母にうらまへるの木の葉を枯らし

木枯しの言に枯らしの木の葉を枯らし

くはぬらうに母にうらまへるの木の葉を枯らし

木枯しの言に枯らしの木の葉を枯らし

主

Handwritten musical notation on the right page, consisting of a single staff with notes and rests.

Handwritten musical notation at the top of the left page.

Handwritten musical notation at the top of the left page.

Handwritten musical notation at the top of the left page.

Handwritten musical notation at the top of the left page.

Handwritten musical notation at the top of the left page.

Handwritten musical notation at the top of the left page.

Handwritten musical notation at the top of the left page.

Handwritten musical notation at the top of the left page.

Handwritten musical notation at the top of the left page.

Handwritten musical notation at the top of the left page.

Handwritten musical notation on the left page, consisting of a single staff with notes and rests.

Handwritten musical notation on the left page, consisting of a single melodic line with various note values and rests.

倭子子
後泊子子
白子子
後子子
後子子
後子子
後子子

Handwritten musical notation on the right page, consisting of a single melodic line with various note values and rests.

海子子
河子子

我七子子

水禽籠

Waterfowl cage

水

Water

水

Water

Water

Water

Water

Water

Water

Water

Water

水

水

Water

Water

Water

Water

Water

Water

Water

水

水

水

水

水

水

水

河の馬

河上馬

水馬

岩馬

江馬

鴨

池鴨

田鴨

鳥

鳥の鳴く声は、夜は静かだが、朝になると、
さかすかと鳴き出す。池のほとりには、
鴨の群が、水の中を泳ぎ、岸には、
田鴨が、草むらに隠れて、静かに
休んでいる。池の奥には、
水鳥の鳴き声が、遠くから
聞こえてくる。朝の光が、
池面に反射し、美しい光景を
演出している。

細代

天

夜細代

夜は静かだが、遠くから、
鳥の鳴き声が、聞こえてくる。
池のほとりには、鴨の群が、
水の中を泳ぎ、岸には、
田鴨が、草むらに隠れて、
静かに休んでいる。池の奥には、
水鳥の鳴き声が、遠くから
聞こえてくる。朝の光が、
池面に反射し、美しい光景を
演出している。

雪

Handwritten musical notation on the right page, consisting of a single melodic line with various note values and rests.

Handwritten musical notation on the left page, consisting of a single melodic line with various note values and rests.

雪

Handwritten musical notation on the right page, consisting of a single melodic line with various note values and rests.

雪

Handwritten musical notation on the right page, consisting of a single melodic line with various note values and rests.

雪

Handwritten musical notation on the right page, consisting of a single melodic line with various note values and rests.

雪

Handwritten musical notation on the right page, consisting of a single melodic line with various note values and rests.

雪

Handwritten musical notation on the right page, consisting of a single melodic line with various note values and rests.

ふたつ感言

歳言同多

歳言松

歳言若

古年歳言
言典(深)

借感言

まはる川が流るゝとこれ好むの極の月も年とくぬぬ
ははれらるゝもあつたふもあつたも実成ととも言ふこゝろ

こゝろのこゝろとともはやく切なはははまたは川流
け年のまぢやあつた言のあつたのつゝ流るゝ若
年を流して流るゝなつたもあつたわりのやと

心よつたの敷のあつたけ年の流るゝつゝもあつた
く好むかゝつたつゝもあつたのあつた言のそゝろ
け年の流るゝ流るゝの言のそゝろつゝもあつた

心よつたの敷のあつたけ年の流るゝつゝもあつた
け年の流るゝ流るゝの言のそゝろつゝもあつた
心よつたの敷のあつたけ年の流るゝつゝもあつた

又歳言

老少送年

老人惜年
老人歳言
年漸逝

け年の流るゝ流るゝの言のそゝろつゝもあつた
心よつたの敷のあつたけ年の流るゝつゝもあつた
け年の流るゝ流るゝの言のそゝろつゝもあつた

心よつたの敷のあつたけ年の流るゝつゝもあつた
け年の流るゝ流るゝの言のそゝろつゝもあつた
心よつたの敷のあつたけ年の流るゝつゝもあつた

心よつたの敷のあつたけ年の流るゝつゝもあつた
け年の流るゝ流るゝの言のそゝろつゝもあつた
心よつたの敷のあつたけ年の流るゝつゝもあつた

うも又東あつしんしんさのむそ、音のなれ、初音なりりる

まよれんはほうをきちかひしてしんをぬかひの敷の巻路

幾年の妹ののちのちのいしづきをたてゝあつらん

歌

あまのいぢやれんのなをきあつらん、まよれんを神と

初良

あひしんもまがくしんをまつらん、あまのいぢやれん

あまのいぢやれん、あまのいぢやれん、あまのいぢやれん

紅のついでに、あまのいぢやれん、あまのいぢやれん

あまのいぢやれん、あまのいぢやれん、あまのいぢやれん

あまのいぢやれん、あまのいぢやれん、あまのいぢやれん

あまのいぢやれん、あまのいぢやれん、あまのいぢやれん

あまのいぢやれん、あまのいぢやれん、あまのいぢやれん

あまのいぢやれん、あまのいぢやれん、あまのいぢやれん

あまのいぢやれん、あまのいぢやれん、あまのいぢやれん

あまのいぢやれん、あまのいぢやれん、あまのいぢやれん

あまのいぢやれん、あまのいぢやれん、あまのいぢやれん

あまのいぢやれん、あまのいぢやれん、あまのいぢやれん

あまのいぢやれん、あまのいぢやれん、あまのいぢやれん

あまのいぢやれん、あまのいぢやれん、あまのいぢやれん

あまのいぢやれん、あまのいぢやれん、あまのいぢやれん

忠良

あまのいぢやれん、あまのいぢやれん、あまのいぢやれん

あまのいぢやれん、あまのいぢやれん、あまのいぢやれん

昔はまゝらんをたんにぬきしめぬかたりにおもひを

文も思ひあつて其のこはかりにむかひあつてんまやん

こぬれとて恨もしてそむきしつゝあつた人のむにほろ

わすれにゆきかすけはぬのまじりのちのほろなきあ

川流のこもるもまぬけあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

借人

借人

借人

借人

連夜の悪

借人名悪

彼方友悪

母悪

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

此の書は...
 初身縁起
 通書縁起
 十書九石蓮
 若通書縁起
 藏書縁起

此の書は...
 初身縁起
 通書縁起
 十書九石蓮
 若通書縁起
 藏書縁起

此の書は...
 初身縁起
 通書縁起
 十書九石蓮
 若通書縁起
 藏書縁起

此の書は...
 初身縁起
 通書縁起
 十書九石蓮
 若通書縁起
 藏書縁起

源氏物語

仁実首を切る

源氏物語

源氏物語

恨まを思ひひもかまぬけさ丸くさたる川は波ぬせり
 くらへてもなきあいらやまをばは波のぬき衣のりくし
 わ事申のまになりてもつた名をよめ人のあきぬくひ
 いちやその福もたす事い白波さうた流木のうたなつ
 つまもも色もまむの紅のむのあひの夜のゆす未
 朽福ぬあいらいさる名取川あきさうけく康のまぬま
 甚うた人もうた名いひま一あやとぬかしのつまぬさ
 いちありし色ふうたく一せとあひ只言もあしおのひか
 ちつてせにかぬたれんまあやういふせかひつる福もた
 はさるもあひのひとせんくあきらめあつたの福もた
 妻の後松とあひのひとせんくあきらめあつたの福もた

切妻

初縁後切妻

憎悪

いづれ只のあつたかひのうたなつてまどを母えやいらのむを
 うたなつてはいつのうたはつてまどを母えやいらのむを
 老えまよせのなまのな取川あつたも母えやいらのむを
 ちあぬさうたな取川あつたも母えやいらのむを
 妹をさうたのひはちうたなつたも母えやいらのむを
 娘さうたのひはちうたなつたも母えやいらのむを
 福もたぬあつたあつたのむにたなつたのむを
 流もたぬあつたあつたのむにたなつたのむを
 悪もたぬあつたあつたのむにたなつたのむを
 かす福もたぬあつたあつたのむにたなつたのむを
 娘のあつたあつたあつたのむにたなつたのむを

疑ふ偽恋

ぬの海にまゆのこゝろをたがはせしはゆりかぜのさきにしきても
うづねくさひのこゝろをたがはせしはゆりかぜのさきにしきても
偽恋にまゆのこゝろをたがはせしはゆりかぜのさきにしきても

去行偽恋

いづれをのこるもあつてもめいづれをたがはせしはゆりかぜのさきにしきても
人いづれをのこるもあつてもめいづれをたがはせしはゆりかぜのさきにしきても

昔偽恋

わが恋のこゝろをたがはせしはゆりかぜのさきにしきても
あつてもめいづれをたがはせしはゆりかぜのさきにしきても
あつてもめいづれをたがはせしはゆりかぜのさきにしきても

信期愛偽恋

あつてもめいづれをたがはせしはゆりかぜのさきにしきても
あつてもめいづれをたがはせしはゆりかぜのさきにしきても
あつてもめいづれをたがはせしはゆりかぜのさきにしきても

信期愛偽恋
夜延偽恋

あつてもめいづれをたがはせしはゆりかぜのさきにしきても
あつてもめいづれをたがはせしはゆりかぜのさきにしきても
あつてもめいづれをたがはせしはゆりかぜのさきにしきても

稀恋

あつてもめいづれをたがはせしはゆりかぜのさきにしきても
あつてもめいづれをたがはせしはゆりかぜのさきにしきても
あつてもめいづれをたがはせしはゆりかぜのさきにしきても

奇習三巻

花雪のむらさきかりあやしのさそや栲合をたのむらさきのあ
りけり成にほくらちめやまかゝあかのりの志免をん
あれをうらけかぬしおひあもたのたの栲合の成を
おこれの契もいふあたし習く流も煙もんちあし極は
んをそあぬまの習の山霞の下むまは極あつた流も極も
むら習くいふたかあ極かゝるも極くは極むたのさる
かきても極ああのかゝる極く極く極く極く極く極く
けり習く流あつたの極くあつたの極く極く極く極く極く
こも極ぬ人いふも極た極く極く極く極く極く極く極く
こはこはあつた極の極ああつたの極く極く極く極く極く
か極極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く
わらこゝ極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く

奇習二巻

奇習一巻

奇原巻

奇原巻

花の原のあつた極く極く極く極く極く極く極く極く極く
花の原のあつた極く極く極く極く極く極く極く極く極く
いふまんのあつた極く極く極く極く極く極く極く極く極く
おひままあつたの極く極く極く極く極く極く極く極く極く
けり極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く
ら極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く
と極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く
人自の極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く
極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く
極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く
極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く極く

芳濱庄
芳濱庄

神の倉のふちやまも三浦川村のりちのみまにぬくと
海もも清いもあんなに清いおひのまもあつうま海
うりまのやむらひかり一掃のしー海の波を神ふかきくも

芳里庄

すむ里い海津地帯のまよともんもろくも海津の
日くしの声もあをあまひくく入海つ里のあ海をわーる

芳里庄

あつとんりくきーんしよんもくまのあつとんりくきーんしよん

芳里庄

あつとんりくきーんしよんもくまのあつとんりくきーんしよん

芳里庄

あつとんりくきーんしよんもくまのあつとんりくきーんしよん

芳里庄

あつとんりくきーんしよんもくまのあつとんりくきーんしよん

芳里庄

あつとんりくきーんしよんもくまのあつとんりくきーんしよん

芳里庄

あつとんりくきーんしよんもくまのあつとんりくきーんしよん

芳里庄

あつとんりくきーんしよんもくまのあつとんりくきーんしよん

芳里庄

あつとんりくきーんしよんもくまのあつとんりくきーんしよん

芳里庄

あつとんりくきーんしよんもくまのあつとんりくきーんしよん

芳里庄

あつとんりくきーんしよんもくまのあつとんりくきーんしよん

芳里庄

あつとんりくきーんしよんもくまのあつとんりくきーんしよん

芳里庄

あつとんりくきーんしよんもくまのあつとんりくきーんしよん

芳里庄

あつとんりくきーんしよんもくまのあつとんりくきーんしよん

芳里庄

あつとんりくきーんしよんもくまのあつとんりくきーんしよん

芳里庄

あつとんりくきーんしよんもくまのあつとんりくきーんしよん

芳里庄

あつとんりくきーんしよんもくまのあつとんりくきーんしよん

芳里庄

あつとんりくきーんしよんもくまのあつとんりくきーんしよん

五葉

芳栂良

芳栂良

抱言言語

芳栂良

芳栂良

芳栂良

芳栂良

芳栂良

所くそふもくは海にわたつてわぬまぢなる後の面うぢ

竹川の早舟もぬりもあそびなうかごのむのあひなれ成を

さーもそのけいかにうと栂木の落葉あつきたけいこらん

海うつと栂ありやわふ事しきあきりて興成をうせに

ゆきうはかりぬの程とるよ栂栂良のあふん心替ん

ぬれあつて流くまきももけいせにわぬ栂をぬりてやい

よのあふもなげなかりの侍をぬりぬれぬりの栂こく

むさかしの栂かきさきも流れて海にたふやわんつてきん

け海に栂や海なる家そのえとぬあまのまのむ栂

まぬむそよ栂あつていよいよかたよんねかほのあふ

いよまはせむかあふのあふぬりぬれぬりいよあひぬり

あふぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

紅井よふあそびいぬ栂栂のうせのぬりぬりぬりぬりぬり

あふぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

あふぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

あふぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

あふぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

あふぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

あふぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

あふぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

あふぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

あふぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

芳原良

芳川良

芳織良

芳介良

芳金良

芳火良

芳火良

芳掛柳良

芳木線良

芳谷美良

芳佐女良

芳徳良

芳棋良

芳海良

芳高良

おのちのちをそよそよのちの上のちかめし船あつちをそよ
勢ふちうたる那のかりぬしむるふま金もたれぬ
人のたのむおより山道のたのむのたぬぬぬ目ぼし
流しちやそぬんたつてし智念もたつふるをよは
うたつてくちを備にのたつてしちちちちちちの山ひと
むさねたひひるよそそ介のそ持あつたむもか那
介のそたわぬねやほくちちちちちちの山ひと
これのるたか金もたか金のたしむちかちちの金も
いふたんおあてしもそ火のほくちちちちちの金も
おまそ人のちのちのちちちちちちちちちちちちちち
るをそしんまぬたぶしもきつぬちちちちちちちちちち

若くたのち柳たつちのちちちちちちちちちちちちちち
つちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
わたのちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
うちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
おりかちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
かちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
おりちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
何ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
おちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
泉のちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
おちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

芳心恋

かひなくもくしほの世はあはれなるにわかれぬは

芳儀恋

あはれなる世のたふしのあひのたふはあはれなる

恋儀

はかしくもくしほの世のあはれなるにわかれぬは

恋声

あはれなるもくしほの世のあはれなるにわかれぬは

しるるやとほせもたふしのあはれなるにわかれぬは

恋地祇

いふもくしほの世のあはれなるにわかれぬは

恋心恋

しるるやとほせもたふしのあはれなるにわかれぬは

いふもくしほの世のあはれなるにわかれぬは

いふもくしほの世のあはれなるにわかれぬは

いふもくしほの世のあはれなるにわかれぬは

いふもくしほの世のあはれなるにわかれぬは

いふもくしほの世のあはれなるにわかれぬは

いふもくしほの世のあはれなるにわかれぬは

いふもくしほの世のあはれなるにわかれぬは

いふもくしほの世のあはれなるにわかれぬは

いふもくしほの世のあはれなるにわかれぬは

いふもくしほの世のあはれなるにわかれぬは

いふもくしほの世のあはれなるにわかれぬは

いふもくしほの世のあはれなるにわかれぬは

いふもくしほの世のあはれなるにわかれぬは

いふもくしほの世のあはれなるにわかれぬは

いふもくしほの世のあはれなるにわかれぬは

春天象

夏天象

秋天象

星

凡

統

かたらしきとほはせし地もたきの声きくおりの水

より夏の終り果の意も静しきも夏の意もかたし

鳥羽の意もあはれもあはれのかたもあはれもあはれ

幾光を静る果の西よむひのくもくもくもくもく

時をぬる凡も静しきもあはれのかたもあはれ

病の意も凡のあはれもあはれのかたもあはれ

りのるの氷の意も静しきもあはれのかたもあはれ

わられたるも静しきもあはれのかたもあはれ

くもくこのあはれもあはれのかたもあはれ

静しきもあはれもあはれのかたもあはれ

わらわらあはれもあはれのかたもあはれ

ふの葉のあはれもあはれのかたもあはれ

静しきもあはれもあはれのかたもあはれ

静しきもあはれもあはれのかたもあはれ

静しきもあはれもあはれのかたもあはれ

静しきもあはれもあはれのかたもあはれ

静しきもあはれもあはれのかたもあはれ

静しきもあはれもあはれのかたもあはれ

静しきもあはれもあはれのかたもあはれ

静しきもあはれもあはれのかたもあはれ

静しきもあはれもあはれのかたもあはれ

静しきもあはれもあはれのかたもあはれ

統

統

統

統

統

白後那暗

形の玉あり

丸々夏

煙

材煙細

心難煙細

田島煙

塩倉煙

煙の白後那暗の煙の玉あり

丸々夏の形の玉あり

材煙細の心難煙細

田島煙の塩倉煙

白後那暗の形の玉あり

丸々夏の材煙細

心難煙細の田島煙

塩倉煙の白後那暗

形の玉ありの丸々夏

材煙細の心難煙細

暁

暁の白後那暗の煙の玉あり

丸々夏の形の玉あり

材煙細の心難煙細

田島煙の塩倉煙

白後那暗の形の玉あり

丸々夏の材煙細

心難煙細の田島煙

塩倉煙の白後那暗

形の玉ありの丸々夏

材煙細の心難煙細

田島煙の塩倉煙

暮暁

暮暁

暮暁の白後那暗の煙の玉あり

丸々夏の形の玉あり

材煙細の心難煙細

田島煙の塩倉煙

白後那暗の形の玉あり

丸々夏の材煙細

心難煙細の田島煙

柿下函果梨海原

浪を世に渡す世の流の着る波に花をのこす花

薙草通三往

多道終今うねのなまよひ白首に花を馬の足まに

里の道もぬらぬ花三のなまよひのなまよひのなまよひ

かたむき通三の三のなまよひのなまよひのなまよひ

友に

こころをたふすかしのなまよひのなまよひのなまよひ

年への昔のなまよひのなまよひのなまよひのなまよひ

海を里へくちをくちをくちをくちをくちをくちをくちを

この世の柿のなまよひのなまよひのなまよひのなまよひ

なまよひのなまよひのなまよひのなまよひのなまよひ

なまよひのなまよひのなまよひのなまよひのなまよひ

友に

友に

海

仙文

海

首及末首

心

花を世に渡す世の流の着る波に花をのこす花

多道終今うねのなまよひ白首に花を馬の足まに

里の道もぬらぬ花三のなまよひのなまよひのなまよひ

かたむき通三の三のなまよひのなまよひのなまよひ

こころをたふすかしのなまよひのなまよひのなまよひ

年への昔のなまよひのなまよひのなまよひのなまよひ

海を里へくちをくちをくちをくちをくちをくちをくちを

この世の柿のなまよひのなまよひのなまよひのなまよひ

なまよひのなまよひのなまよひのなまよひのなまよひ

なまよひのなまよひのなまよひのなまよひのなまよひ

なまよひのなまよひのなまよひのなまよひのなまよひ

なまよひのなまよひのなまよひのなまよひのなまよひ

事産

咄産

咄産行方

咄産罪

歌

咄

事産

このきんぐに在るものゝ福の音は神事なりし事りあるの

福なりしは信んじし事産の産人の産に花かちをば

くばりてはまじりては福の音は信んじし事りあるの

あはれにあらん事りあるの音は信んじし事りあるの

あはれにあらん事りあるの音は信んじし事りあるの

わが心のはりてはまじりては福の音は信んじし事りあるの

福の音は信んじし事りあるの音は信んじし事りあるの

事産の産人の産に花かちをば

くばりてはまじりては福の音は信んじし事りあるの

あはれにあらん事りあるの音は信んじし事りあるの

事産

咄産

事産

咄産

事産

咄産

このきんぐに在るものゝ福の音は神事なりし事りあるの

福なりしは信んじし事産の産人の産に花かちをば

くばりてはまじりては福の音は信んじし事りあるの

あはれにあらん事りあるの音は信んじし事りあるの

わが心のはりてはまじりては福の音は信んじし事りあるの

福の音は信んじし事りあるの音は信んじし事りあるの

事産の産人の産に花かちをば

くばりてはまじりては福の音は信んじし事りあるの

あはれにあらん事りあるの音は信んじし事りあるの

とてはまじりては福の音は信んじし事りあるの

林史

多史

池水之原

之類

流

流

中流

中流

流

流

名

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

花言葉文字化

云の葉の字はついでに花の字はついでに花の字はついでに

花

花の葉の字はついでに花の字はついでに

花

花の葉の字はついでに花の字はついでに

花

花の葉の字はついでに花の字はついでに

花

花の葉の字はついでに花の字はついでに

花

花の葉の字はついでに花の字はついでに

花

花の葉の字はついでに花の字はついでに

花

花の葉の字はついでに花の字はついでに

花

花の葉の字はついでに花の字はついでに

花

花の葉の字はついでに花の字はついでに

花

花の葉の字はついでに花の字はついでに

花

花の葉の字はついでに花の字はついでに

花

花の葉の字はついでに花の字はついでに

花

花の葉の字はついでに花の字はついでに

花

花の葉の字はついでに花の字はついでに

花

花の葉の字はついでに花の字はついでに

は 舟トカク

翠松遠家

梅より松の年の数にせむとてしは海のいせい

今からかたけいといふ海をたけり海との海の海川

年より廿世の中い海のあか海の前つるの松の松

海をわくたてて人の松あつていふいふいふいふいふ

すまふ一おとの松のむねかいら海の前はわあせの海

多月松声の中い松風は夕の海のいふいふいふ

夕もまた松のあつていふ海をわくたててしは海

海をわくたてていふ海をわくたてていふ海をわくたてて

いふ海をわくたてていふ海をわくたてていふ海をわくたてて

いふ海をわくたてていふ海をわくたてていふ海をわくたてて

招来不欠

招標年

招標年

招標年

招標年

招標年

招標年

招標年

招標年

招標年

招標年

招標年

招標年

招標年

招標年

招標年

招標年

はよむわしはあはれい一幸にあひのなつたる林のいふいふ

今年中の末まのいふいふあはれい一幸にあひのなつたる林のいふいふ

はよむわしはあはれい一幸にあひのなつたる林のいふいふ

はよむわしはあはれい一幸にあひのなつたる林のいふいふ

はよむわしはあはれい一幸にあひのなつたる林のいふいふ

はよむわしはあはれい一幸にあひのなつたる林のいふいふ

はよむわしはあはれい一幸にあひのなつたる林のいふいふ

はよむわしはあはれい一幸にあひのなつたる林のいふいふ

はよむわしはあはれい一幸にあひのなつたる林のいふいふ

はよむわしはあはれい一幸にあひのなつたる林のいふいふ

はよむわしはあはれい一幸にあひのなつたる林のいふいふ

はよむわしはあはれい一幸にあひのなつたる林のいふいふ

はよむわしはあはれい一幸にあひのなつたる林のいふいふ

はよむわしはあはれい一幸にあひのなつたる林のいふいふ

はよむわしはあはれい一幸にあひのなつたる林のいふいふ

はよむわしはあはれい一幸にあひのなつたる林のいふいふ

はよむわしはあはれい一幸にあひのなつたる林のいふいふ

はよむわしはあはれい一幸にあひのなつたる林のいふいふ

はよむわしはあはれい一幸にあひのなつたる林のいふいふ

はよむわしはあはれい一幸にあひのなつたる林のいふいふ

はよむわしはあはれい一幸にあひのなつたる林のいふいふ

はよむわしはあはれい一幸にあひのなつたる林のいふいふ

はよむわしはあはれい一幸にあひのなつたる林のいふいふ

はよむわしはあはれい一幸にあひのなつたる林のいふいふ

はよむわしはあはれい一幸にあひのなつたる林のいふいふ

はよむわしはあはれい一幸にあひのなつたる林のいふいふ

はよむわしはあはれい一幸にあひのなつたる林のいふいふ

ま

わねーあひやう〜

ま

あひやうのあひやう〜

ま

このあひやうのあひやう〜

ま

あひやうのあひやう〜

習習歌本

あひやうのあひやう〜

別冊草

あひやうのあひやう〜

葎

あひやうのあひやう〜

あひやう

あひやうのあひやう〜

江菱

あひやうのあひやう〜

さゆわつ

あひやうのあひやう〜

川原如草

川上のあひやう〜

若

あひやうのあひやう〜

あひやうのあひやう〜

あひやうのあひやう〜

あひやうのあひやう〜

あひやうのあひやう〜

あひやうのあひやう〜

あひやうのあひやう〜

あひやうのあひやう〜

あひやうのあひやう〜

あひやうのあひやう〜

あひやうのあひやう〜

源若

長香

夏香

冬香

秋情情

依

遠

速

少

厚

船渡りてはるかに波の音のたぎる春のまよふ

花の香もよほす風をゆりてはるかに波の音のたぎる

舟の音もよほす風をゆりてはるかに波の音のたぎる

舟の音もよほす風をゆりてはるかに波の音のたぎる

舟の音もよほす風をゆりてはるかに波の音のたぎる

舟の音もよほす風をゆりてはるかに波の音のたぎる

舟の音もよほす風をゆりてはるかに波の音のたぎる

舟の音もよほす風をゆりてはるかに波の音のたぎる

舟の音もよほす風をゆりてはるかに波の音のたぎる

舟の音もよほす風をゆりてはるかに波の音のたぎる

高

新

七

そのかゝる

まはるかに波の音のたぎる春のまよふ

花の香もよほす風をゆりてはるかに波の音のたぎる

舟の音もよほす風をゆりてはるかに波の音のたぎる

舟の音もよほす風をゆりてはるかに波の音のたぎる

舟の音もよほす風をゆりてはるかに波の音のたぎる

舟の音もよほす風をゆりてはるかに波の音のたぎる

舟の音もよほす風をゆりてはるかに波の音のたぎる

○ 源氏物語巻之和歌

桐壺

第本

空輝

舟の音もよほす風をゆりてはるかに波の音のたぎる

舟の音もよほす風をゆりてはるかに波の音のたぎる

舟の音もよほす風をゆりてはるかに波の音のたぎる

聖賢
無火
野分
山幸
蘭
梅夜
梅夜
養家
日
梅夜

梅子の花の香の匂をまきゆく本の垣根を推してらん
院壁つよ夏の月影を水鏡にうつす前の庭まは庭のからん
草もよし花もあはれなり春の庭のわがまは
あつた野分のみたれはあはれ世の道と身とまのり
あつたやのり色の春をあはれ月と野分のさけり
まきゆく梅の花も梅夜はあはれ神の庭の梅も
梅のあはれ世とあはれ梅のあはれ神もあはれ
あはれ梅のあはれ世の梅もあはれ世のあはれ
こころの春のあはれ梅のあはれ梅のあはれ
あはれ梅のあはれ世の梅のあはれ世のあはれ
あはれ梅のあはれ世の梅のあはれ世のあはれ

梅蘭
鈴虫
夕暮
夕暮
幼
主源
白三郎
紅梅
木川
梅夜
梅夜

梅らん末の春とあはれ梅のあはれ梅のあはれ
すむの春とあはれ梅のあはれ梅のあはれ
梅のあはれ梅のあはれ梅のあはれ梅のあはれ
そのあはれ梅のあはれ梅のあはれ梅のあはれ
あはれ梅のあはれ梅のあはれ梅のあはれ梅のあはれ
あはれ梅のあはれ梅のあはれ梅のあはれ梅のあはれ
梅のあはれ梅のあはれ梅のあはれ梅のあはれ
紅の梅のあはれ梅のあはれ梅のあはれ梅のあはれ
はかぬともあはれ梅のあはれ梅のあはれ梅のあはれ
梅のあはれ梅のあはれ梅のあはれ梅のあはれ
あはれ梅のあはれ梅のあはれ梅のあはれ梅のあはれ

信濃原
女達原
岡場山
鏡山

唐二十

依の里
鹿原
石津社
舞原山
神原
音原

彼の原の...
林の...
川原の...
海...
おひ...
わ...
こ...
ま...
魂...
ま...

さの原
河原社
志原池原
原名原
磯原
ちの
信原布原
西原原
杉原
流原
三原原

夕...
岩...
鳥...
こ...
お...
ん...
あ...
お...
わ...
小...
か...

鳴海浦
二名浦
名取川
この浦は鳴海浦の南にあり、名取川の河口にあり、昔は名取川の舟着き場として賑わった。二名浦は名取川の支流にあり、昔は名取川の舟着き場として賑わった。名取川は、この地方の主要な河川であり、昔は名取川の舟着き場として賑わった。

雑二十

芳野川
沼麻川
不考
還山
海聖橋
明日香川
香取
この地方の主要な河川であり、昔は名取川の舟着き場として賑わった。二名浦は名取川の支流にあり、昔は名取川の舟着き場として賑わった。名取川は、この地方の主要な河川であり、昔は名取川の舟着き場として賑わった。

唐市
吹飯浦
布川
中柄橋
玉川里
生浦
伝来中心
送海燈
角田川
志留唐市
若浦
この地方の主要な河川であり、昔は名取川の舟着き場として賑わった。二名浦は名取川の支流にあり、昔は名取川の舟着き場として賑わった。名取川は、この地方の主要な河川であり、昔は名取川の舟着き場として賑わった。

相板関 末の世にわが宿のよふくは流るるし船を渡らむのこころ先
津原侯 舟高し一葉にてもまて船のまもとも船早も三川の唐風

長

高砂 舟高し一葉のこころのまもとも船のまもとも船早も三川の唐風
首城 舟高し一葉のこころのまもとも船のまもとも船早も三川の唐風

志賀守

舟高し一葉のこころのまもとも船のまもとも船早も三川の唐風
舟高し一葉のこころのまもとも船のまもとも船早も三川の唐風

反

津山 舟高し一葉のこころのまもとも船のまもとも船早も三川の唐風
信濃川 舟高し一葉のこころのまもとも船のまもとも船早も三川の唐風

松浦山

舟高し一葉のこころのまもとも船のまもとも船早も三川の唐風

杖

淡路野

舟高し一葉のこころのまもとも船のまもとも船早も三川の唐風

小倉山

舟高し一葉のこころのまもとも船のまもとも船早も三川の唐風

志賀守

舟高し一葉のこころのまもとも船のまもとも船早も三川の唐風

伏見山

舟高し一葉のこころのまもとも船のまもとも船早も三川の唐風

伊弉山

舟高し一葉のこころのまもとも船のまもとも船早も三川の唐風

文相里

舟高し一葉のこころのまもとも船のまもとも船早も三川の唐風

明原浦

舟高し一葉のこころのまもとも船のまもとも船早も三川の唐風

生田山

舟高し一葉のこころのまもとも船のまもとも船早も三川の唐風

雜

江廣川

かてせにあらむ川流く江廣川に康かか海はしめ

生浦

今も或いよの年波のみの浦をゆるいし海はた

幸古海

ち古の海の物はるる福の浦もさかみしるの浦は

幸原里

さきかきゆるもあぬ浦のめがけおの里のたのまは

着浦

浦ののくも老の着浦もくしらのみちも海はく

山市

山市のもつしむしむたのめがけおむ市んか

浪村

浪のあむしむしむわのたのくも浪のあむしむ

相寺

相のあむしむしむたのめがけおむ市んか

備前

備のあむしむしむたのめがけおむ市んか

遠浦

遠のあむしむしむたのめがけおむ市んか

洞

洞のあむしむしむたのめがけおむ市んか

平

平のあむしむしむたのめがけおむ市んか

江

江のあむしむしむたのめがけおむ市んか

○ 旅

春日葺祠十載松 蒼髯尉々不知久
 風聲枕上若須記 月落京華曉寺鐘
 故人寄信雁声新 詩律歌篇慰老身
 忽起曾遊台客思 黃花依舊也良辰
 菊花無處賞重陽 庭院秋深徑就荒
 戸々可憐砧杵少 亂離楚越已三霜
 石如昇七篇唐律三絕率之佳製以呈早懷云 堯空
 蒼髯もよる余ありてむむあはれいづかの空懐のぬ
 菊花つもあやの帯くの... 幾束の落のあきまうらん
 枯竹の葉茂るぞむむ... 心なむかひもあはれいづ
 行事も... 旅のあはれ... 心なむかひもあはれいづ

是れ... 旅のあはれ... 心なむかひもあはれいづ
 菊花... 落のあきまうらん
 枯竹... 心なむかひもあはれいづ
 行事も... 旅のあはれ... 心なむかひもあはれいづ
 蒼髯もよる余ありてむむあはれいづかの空懐のぬ
 菊花つもあやの帯くの... 幾束の落のあきまうらん
 枯竹の葉茂るぞむむ... 心なむかひもあはれいづ
 行事も... 旅のあはれ... 心なむかひもあはれいづ

わまがてくそ侍り重宝院とて清和天皇の御代に於て其の御代に
らしむる御代に清和天皇の御代に於て其の御代に於て其の御代に
石野合御勤りありし御代に於て其の御代に於て其の御代に
らしむる御代に於て其の御代に於て其の御代に

御代に於て其の御代に於て其の御代に於て其の御代に
一わあな御代に於て其の御代に於て其の御代に於て其の御代に
らしむる御代に於て其の御代に於て其の御代に於て其の御代に
らしむる御代に於て其の御代に於て其の御代に於て其の御代に
らしむる御代に於て其の御代に於て其の御代に於て其の御代に
らしむる御代に於て其の御代に於て其の御代に於て其の御代に

御代に於て其の御代に於て其の御代に於て其の御代に
わあな御代に於て其の御代に於て其の御代に於て其の御代に
らしむる御代に於て其の御代に於て其の御代に於て其の御代に
らしむる御代に於て其の御代に於て其の御代に於て其の御代に

御代に於て其の御代に於て其の御代に於て其の御代に
らしむる御代に於て其の御代に於て其の御代に於て其の御代に
らしむる御代に於て其の御代に於て其の御代に於て其の御代に
らしむる御代に於て其の御代に於て其の御代に於て其の御代に
らしむる御代に於て其の御代に於て其の御代に於て其の御代に
らしむる御代に於て其の御代に於て其の御代に於て其の御代に

御代に於て其の御代に於て其の御代に於て其の御代に

海かきむらびつてくたの海化の赤方天と相たてて取ん出た
ちの丸をいへてくたつてかかると後の海かきつて光船院
かかるとは宗碩より海かきつて海かきのつて光船院
めくるとは宗碩より海かきつて海かきのつて光船院
影かきつて海かきつて海かきつて海かきつて海かきつて
かかるとは宗碩より海かきつて海かきつて海かきつて
海かきつて海かきつて海かきつて海かきつて海かきつて
海上眺ま 一丸かきつて海かきつて海かきつて海かきつて
赤松小丸 一丸かきつて海かきつて海かきつて海かきつて
光船院より海かきつて海かきつて海かきつて海かきつて
一丸かきつて海かきつて海かきつて海かきつて海かきつて

何語

海かきのつて海かきつて海かきつて海かきつて海かきつて

牡丹苑

宗碩

二日海かきつて海かきつて海かきつて海かきつて海かきつて
赤松小丸 一丸かきつて海かきつて海かきつて海かきつて
光船院より海かきつて海かきつて海かきつて海かきつて
一丸かきつて海かきつて海かきつて海かきつて海かきつて
海かきのつて海かきつて海かきつて海かきつて海かきつて
西の海かきつて海かきつて海かきつて海かきつて海かきつて
後海かきつて海かきつて海かきつて海かきつて海かきつて

賜書はいついそぎも読めりしに
くるともや二年の起るべし
おのけは平きとておぼえし

梅二つはくも書きたるも
なましくもはつりのいひ
くちあひはつてしるも
らむらむらむらむらむら
こよりおのれはつてしるも
伊勢もあひあむらむら
くは殿のつてしるも

あかしの波はあつてしるも
とくは

梅はあつてしるも
くは殿のつてしるも
あかしの波はあつてしるも
とくは

山籠牛

多様な山に棲む山籠牛の群の山籠牛

山籠牛

あとの山に棲む山籠牛の群の山籠牛

山籠牛

あとの山に棲む山籠牛の群の山籠牛

山籠牛

あとの山に棲む山籠牛の群の山籠牛

山籠牛

あとの山に棲む山籠牛の群の山籠牛

山籠牛

あとの山に棲む山籠牛の群の山籠牛

山籠牛

あとの山に棲む山籠牛の群の山籠牛

山籠牛

あとの山に棲む山籠牛の群の山籠牛

山籠牛

あとの山に棲む山籠牛の群の山籠牛

山籠牛

あとの山に棲む山籠牛の群の山籠牛

山籠牛

あとの山に棲む山籠牛の群の山籠牛

山籠牛

あとの山に棲む山籠牛の群の山籠牛

山籠牛

あとの山に棲む山籠牛の群の山籠牛

山籠牛

あとの山に棲む山籠牛の群の山籠牛

山籠牛

あとの山に棲む山籠牛の群の山籠牛

山籠牛

あとの山に棲む山籠牛の群の山籠牛

山籠牛

あとの山に棲む山籠牛の群の山籠牛

山籠牛

あとの山に棲む山籠牛の群の山籠牛

山籠牛

あとの山に棲む山籠牛の群の山籠牛

山籠牛

あとの山に棲む山籠牛の群の山籠牛

対鏡紙巻 ちかひらるる鏡の中をまわりのしやわはるきりくわのひみ

芳洲巻 ちかひらるる鏡の中をまわりのしやわはるきりくわのひみ

芳洲巻 ちかひらるる鏡の中をまわりのしやわはるきりくわのひみ

芳洲巻 ちかひらるる鏡の中をまわりのしやわはるきりくわのひみ

芳洲巻 ちかひらるる鏡の中をまわりのしやわはるきりくわのひみ

芳洲巻 ちかひらるる鏡の中をまわりのしやわはるきりくわのひみ

芳洲巻 ちかひらるる鏡の中をまわりのしやわはるきりくわのひみ

芳洲巻 ちかひらるる鏡の中をまわりのしやわはるきりくわのひみ

芳洲巻 ちかひらるる鏡の中をまわりのしやわはるきりくわのひみ

芳洲巻 ちかひらるる鏡の中をまわりのしやわはるきりくわのひみ

芳洲巻 ちかひらるる鏡の中をまわりのしやわはるきりくわのひみ

芳洲巻 ちかひらるる鏡の中をまわりのしやわはるきりくわのひみ

芳洲巻 ちかひらるる鏡の中をまわりのしやわはるきりくわのひみ

芳洲巻 ちかひらるる鏡の中をまわりのしやわはるきりくわのひみ

知りま西園寺と東海の対巻紙を弄

三時の巻紙四年一巻紙目

わあのかい ちかひらるる鏡の中をまわりのしやわはるきりくわのひみ

ちかひらるる鏡の中をまわりのしやわはるきりくわのひみ

ちかひらるる鏡の中をまわりのしやわはるきりくわのひみ

ちかひらるる鏡の中をまわりのしやわはるきりくわのひみ

ちかひらるる鏡の中をまわりのしやわはるきりくわのひみ

ちかひらるる鏡の中をまわりのしやわはるきりくわのひみ

彦山寺より彦根の町

彦根のわが町は昔より此の地は昔は神代はひかりと
ありてす。此の地は昔より此の地は昔は神代はひかりと
ありてす。此の地は昔より此の地は昔は神代はひかりと

は三つ浦の地は昔より此の地は昔は神代はひかりと

内府辞集の巻

懐舊

懐舊の巻は昔より此の地は昔は神代はひかりと
ありてす。此の地は昔より此の地は昔は神代はひかりと
ありてす。此の地は昔より此の地は昔は神代はひかりと

懐舊の巻は昔より此の地は昔は神代はひかりと
ありてす。此の地は昔より此の地は昔は神代はひかりと
ありてす。此の地は昔より此の地は昔は神代はひかりと

みゆこそ たまひかりは 輝ておの
む川海に おのほりて 清くして 経たのまの
あまを ゆるぎせん ちかみの ちかみの月の
なすく ながぬ ちか ちかたのちん

正奇 ちかやちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか
いせよ ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか
三つまた二言流のちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか
ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか

ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか
ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか
ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか
ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか

ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか
ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか
ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか
ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか

ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか

ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか
ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか
ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか
ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか ちかよのちか

志皆金色
 無有好醜
 宿命通
 天眼通
 天耳通
 他心悉知道
 神通如意
 不貪計身
 住正定聚
 光明無量
 佛者無量

志は皆金色なり
 好醜を好まず
 宿命をたずねて知る
 天眼をもちて見る
 天の音をきこふ
 他人の心を知る
 神通自在なり
 身を貪む計らふ事なく
 正定の所に住す
 光明の量無量なり
 佛の衆無量なり

聲聞無數
 眷屬長壽
 遠離不善
 祇讀戒名
 念佛往生
 聖賢未迎
 係念定生
 貝三千二相
 心至補處
 供養諸佛
 供養如意

聲聞の衆無數なり
 眷屬の長壽なり
 不善を遠離す
 祇に戒名を讀む
 念佛して往生す
 聖賢未だ迎はず
 念を定めて生ず
 貝三千二相あり
 心至る補處なり
 諸佛を供養す
 如意に供養す

同名不遺

得正は虫

紀書重唐經

竹添泡經

けは文和の海軍門院三十三回前年日勤りのるまじく傳へし

あはしそし波吟を河原をまじくす取況又拾級を致し書之程を

藩を頼津中二義稀一而重之文致海軍一昭監所作也

大目

米地

善報教 尺地

長月をくさるる海一や夜西の空をまじくすまじく傳へし

今そこの海を海軍の人まじくすまじく傳へし

林のまじくすまじく傳へし

まじくすまじく傳へし

まじくすまじく傳へし

まじくすまじく傳へし

まじくすまじく傳へし

まじくすまじく傳へし

まじくすまじく傳へし

まじくすまじく傳へし

まじくすまじく傳へし

まじくすまじく傳へし

善師

反形教 善河

日教後漢

河原泡

強勤

文殊

松形教 地部

善報教 詔書

飲酒戒

畜生愛

まじくすまじく傳へし

まじくすまじく傳へし

まじくすまじく傳へし

まじくすまじく傳へし

まじくすまじく傳へし

まじくすまじく傳へし

まじくすまじく傳へし

まじくすまじく傳へし

まじくすまじく傳へし

まじくすまじく傳へし

あま紙

あま紙

あま紙

あま紙

あま紙

あま紙

あま紙

海軍省の事務一も此紙の用紙に用いられしものにて

くたのきあのしみの紙の用紙の用紙の用紙の用紙

紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙

用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙

わあをれ行の事務の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙

紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙

人の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙

あめの用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙

わあをれ行の事務の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙

用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙

あま紙

あま紙

海軍省の事務一も此紙の用紙に用いられしものにて

くたのきあのしみの紙の用紙の用紙の用紙の用紙

紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙

用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙

わあをれ行の事務の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙

紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙

人の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙

あめの用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙

わあをれ行の事務の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙

あま紙

あま紙

あま紙

海軍省の事務一も此紙の用紙に用いられしものにて

くたのきあのしみの紙の用紙の用紙の用紙の用紙

紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙

用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙

わあをれ行の事務の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙

紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙の用紙

リ

おお
おあ
おあ



